

「本会活動に使用する機材・資材及び作業方法等について」

普段から沢山の情報提供やご提案を頂きます。ひとつひとつ検証したり、調査したりしています。情報提供やご提案は大歓迎なのですが、なかなか採用できない事や物も多いのが実情です。

なかには「この前紹介した物はもう使ってるかな?」とか「あのやり方試してみた?」というお話も聞きます。

そこで今回、私がどういう基準で本会の活動に使う機材・資材を選択し、作業方法を選択しているかをご紹介しておきます。ご提案やご紹介をいただく際にご参考にしていただければと思います。

- 1、「試しに買ってみよう」の前には必ずネットで購入者のレビューやプロの評価などを参考にしています。(衝動買いはしない)

個人用の機材や資材もありますが、会の資金は大勢の方の善意です。「良さそう」「面白そう」で衝動買いをして、万一にでも無駄にしたいたくないのです。特にマニアックな方の情報は注意しています。なかにはご自分で購入されて、使ってみられたものを活動に持参されて「これを寄付するから使ってみたら?」と現物を頂ける場合もあります。本当にありがたいです。

しかし、なかには「会の予算で買ってもらって、使ってみて良かったら自分用に買おうかな?」という魂胆の方も居られない訳ではないです。これでは困ります。

- ① 誰でも使えるか?
(一定の経験や技術が必要な物も少なくない。)
(プロでないボランティアでも使えるか?)
- ② 本当に使いやすいか?
(メンテナンスが面倒だったり、すぐに壊れたりしないか?)
(汎用性がなく、特殊な用にしか使えず、滅多に使えないでは困る)
- ③ 本当に効果があるか?
(コストパフォーマンス)

- 2、どんなに良いものでも価格が高い物は購入できない。

良いのはわかっているけど、会の予算の制約上買えない、使えない物は沢山あります。また、限られた予算の中では優先順位もあります。

- ① 会の予算で許される範囲で、優先順位を考慮しても購入すべきか?
- ② とりあえず最小数購入し、検証後に再度検討するか?
- ③ どれだけ必要か? (どれだけ購入するか、購入できるか?)

価格的に全員が使えるだけの購入が無理な場合もあります。また、使用頻度(必要性)から考えて少数で良いものもあります。

そうした点も考慮しています。数に制約がある資材・機材は基本的に作業能力の高い

人に使ってもらっています。

例えば作業効率が50%アップする機材があれば、1時間に100出来る人と70出来る人では100出来る人に使ってもらいます。100の50%アップは50ですが、70の50%アップは35だからです。

「便利な物はいつもあの人が使って、自分は使わせてもらえない。」と思われる方も有ろうと思いますが、貴重な資金で購入したものは、出来るだけ大きな成果を生み出して欲しいからです。決して個人的な好き嫌いではありません。

3、作業方法の改善についても常にリスクとメリットを勘案しています。

最近の例で言えば「ウッドチップを散布する事の功罪」「草刈り高さの変更」があります。従来は「ウッドチップを撒くとミミズなどが増えてイノシシが荒らす。」とか「ウッドチップを撒くと火災の危険が増す。」等と言う考え方でウッドチップをマルチング材料として使用する事は控えてきました。しかし、最近複数の専門家の方にお話を聞いてそうした考えをやめました。この件での私の反省は「きちんと複数の専門家から意見を聞いたり、文献やネットでの情報を収集するなどを怠り、仲間内での「あの方は詳しいから」とか「あの方はそういう事が趣味だから」と言う評価だけで、その人たちの意見をきちんと検証しなかった事です。一つの事柄には常に複数の評価や意見があります。それをきちんと比較し、検討したうえで判断すべきでした。「草刈り高さ」についても同じです。深く考える事も、専門家の意見も聞くことなく、「草はきちんとできるだけ低く刈らねばならない。」と思い込んで、それが間違っている事に気が付きませんでした。「思い込み」「先入観」を検証しようとしなかった私のミスです。

今後は自分の考えは無論のこと、誰かの提案や意見も、すぐにそれを受け入れてやるのではなく、色々なチャンネル、色々な角度からの検証を行ったうえで、判断をします。

「グラウンドカバー植物、実証実験」は、そうした反省と考察の上で着手しました。

「おわりに」

今後も多くの方の意見や提案をいただき、自身も色々と研究・学習・考察・検証を行いながら「より効率的で」「より高品質な」公共サービスが提供できるように、努力してゆきます。